

ソフトウェア・シンポジウム2010 プロセス改善WG 実施レポート

2010年6月9日(水)-11日(金)

会 場 : 開港記念館(横浜)

WG6「ソフトウェアプロセス改善次の10年」

- コーディネータ:小笠原秀人(東芝)
- 概要
- 1990年代から2000年代前半までは、CMMがかなり注目を集め、多くの企業で導入されてきました。各企業におけるプロセス改善活動(SPI活動:Software Process Improvement)の推進に際しても、CMMの影響は大きいと言えます。しかしながら、現在、プロセス改善の領域においては、CMMのような影響力のある技術は存在しません。今、求められることは、これまでプロセス改善活動を実践してきた経験を踏まえ、次の10年のプロセス改善のあり方を検討し、実行に移すことです。
- このWGでは、まず最初にCMMからの教訓を整理します。その後、現状におけるソフトウェアプロセス改善の問題点や次の10年に向けて考えなければいけないことなどを議論したいと考えています。
- WGは初日の招待講演と1日目～3日目の議論のセッションに分かれています。招待講演では、この10年間の活動で得られた知見や成功体験についての講演を行います。1日目～3日目の議論では、いろいろな観点からの意見をインプットとして議論の幅を広げつつ、深い議論を展開する予定です。

タイムスケジュール

• 6/10(木)

- 講演聴講
 - 13:30-14:30
 - テストから始めるプロセス改善
 - 14:45-15:45
 - システムエンジニアのためのビジネスイノベーションへの挑戦
- 参加者からのプレゼン
 - 9:30-10:15 **さん
 - 10:15-11:00 **さん
 - 11:00-11:45 **さん
 - 16:00-16:45 **さん
 - 16:45-17:30 **さん
 - 17:30-18:15 **さん

• 6/11(金)

- 10:00-11:00
 - 新たなソフトウェアが生まれるきっかけとは？
- 14:45-16:15
 - Looking Back for Future
- 11:00-11:45 議論
- 13:30-14:30 議論

参加者:7名(リーダ含む)

- 議論の進め方
 - キーワードは10年
 - 議論が脱線した時には、10年続けられるか、10年先のことを見据えた議論なのかと問いかける
 - モチベーションアップ、やらされ感からの脱却というところには、あまり焦点を当てない
- 議論したいテーマ
 - 少なくとも、やるべきことはやるべき
 - これを浸透させるにはどうするか？
 - アジャイルとプロセス改善
 - 今後10年に向けて、何をどのように展開すべきなのか？
 - アジャイルは組織的に出来ないのでは？
 - 人に蓄積するのではなく、組織に蓄積を
 - パラダイムシフトがあった方がよいか？
 - この業界、10年サイクルと言われた
 - プロセス、プロダクトと行き来する
 - モデルの位置付け、使い方。CMMI 1.3でアジャイルが入ってくるなど大きな変更があると言われている。

これまで10年

- モデル(CMMI)によって、成熟度の理解が広がり、プロセス改善活動に大きく寄与した
- SEPG or EPGとSQAGが、開発部門における機能として必要ということが見えてきた
- IPA/SECの活動によって、会社や個人で使える道具が増えてきた

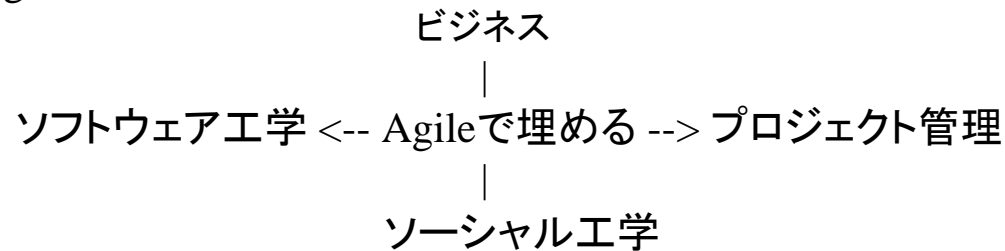
現状認識：ゴールはないが...

- 「プロセス改善」が、企業において当然やるべき活動にならない
 - 花火を打ち上げないと活性化しない
- 「私作る人、あなた使う人」という構図から脱却できない
- ソフトウェア開発において、当たり前にするべきことが出来ていない
- 回りも変わらないと、自立的に改善活動を推進することも難しい
 - ハードウェア部門もプロセス改善を
 - 経営側に、組織成熟度向上がビジネスの成功につながるという理解を持ってもらうことが必要
 - 発注側が変わらないといけない
 - レベルが低いところからの発注は、プロジェクト混乱のもと
- 品質（機能安全）に対する要求はますます高くなるはず
 - 自動車用の規格(26262)などの出現
 - 形式手法に基づく検証が必須に

いくつかの講演から

- 平鍋さんの講演

- ソフトウェア開発は学習過程を交えながら進められる
- ソフトウェア＝工学＋管理 は間違い！
- Agile を活かす！



- 端山さん

- モデルは好意的に解釈して、実装は批判的に
- コラボレーションとコオペレーション
- Industry as Laboratory、みんなで作って育てる、現場が主役

- 安達さんの講演

- テストから始めるプロセス改善
- 問題発見アプローチ／問題解決アプローチが大切
- いろいろな局面で使える選択肢を持つ

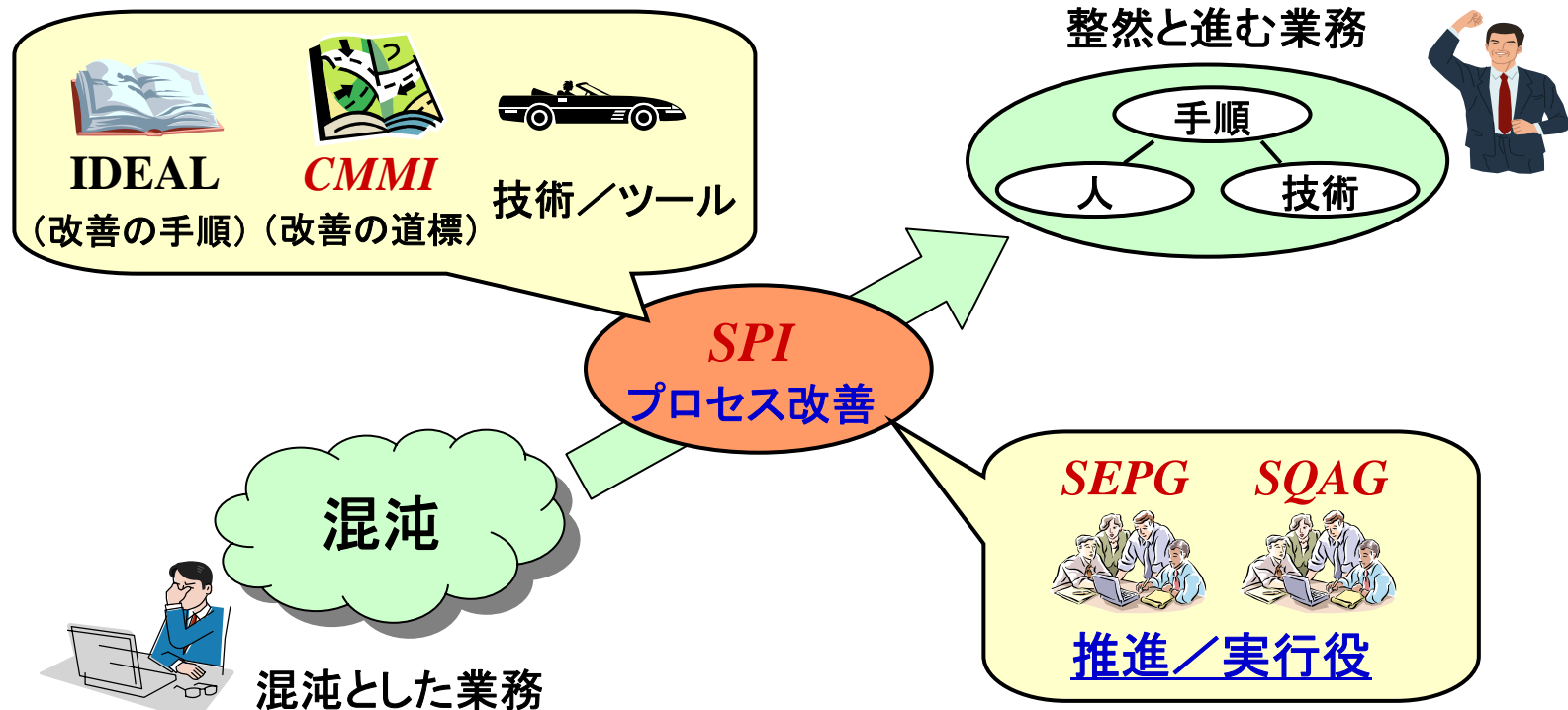
- 細川さんの講演

- グローバル化への道を切り開け
- 日本の品質は大いなる強み！
- 革新的改革を
 - 視点、要素、時間(短期的／長期的)、空間(狭い／広い)

岸田さんの講演

- ソフト開発は人と人とのコミュニティがあつてこそ成立。
- 「真理は一人の中には存在し得ない、対話の中にある」
- ソフトウェアシンポジウム30年もその一助になったのではと思う。

SPIとは何か？



SEPG: Software Engineering Process Group
SQAG: Software Quality Assurance Group

次の10年に向けて

現場の方ではなく、
推進の専門家が
適切に使う

- モデル(CMMI)は大事にしよう
 - ここから多くのことを学んだ。次の世代の方が学べる場を！
- 開発現場が自ら考えて動く
 - 課題解決型アプローチの推進とその結果を組織プロセスへフィードバックする仕組みの確立
 - プロセスを自由自在に操れることこそ、プロジェクトマネージャやリーダーの醍醐味！
- 当たり前前にはやるべきことをやる
 - プロフェッショナルな技術者と管理者を育てる
 - データに基づく状況認識(クールに！)
- 経営側の期待をソフトウェアで解決できるストーリー作り(企画)を
 - 経営側の意図を解釈する
 - 中長期的な視点を持って考える
 - 技術を持って解決を
- 形式手法を身近なものに
 - PSPなどの活用(PSPのトレーニングの中で形式手法を取り込むことも有効)

モデルで言っていることと同じ。経営層と現場の課題を合わせることが大事。

プロセス改善のためのプロセス

- 大きな意味でのサイクルはIDEAL
- プロジェクト単位では“ふりかえり”
 - 以前は、反省点をあげてその解決策の検討だけ(ハードなやり方)
 - KPTで、モチベーションなどがどのように遷移したかなども確認するようになった(ソフトなやり方に)
 - 大事なことは“データに語らせデータに聞く”こと
 - 理解し、納得することが大事

PSPは広がるか？

- 開発者／管理者の方々には知って欲しい
 - PSPを知っていると、イテレーションも回せる
 - 記録して、振り返ることが出来る
 - “Agileは軽くやる”という誤解から回避できる
- 企業でのアプローチ
 - 実際の業務の中で適用する
 - 開発のサイズなどが合わないとき難しい
 - 新人教育の中で実施しているところが出てくる
 - PSP、プロダクトライン、プロジェクト管理などの要素を加味している場合あり
- 現場サイドでは...
 - 結局、開発プロセスの中で教えているし、実施している
 - 組織で実施していることにスムーズに入れるはず
- 大学で教えられるか？
 - 一人の講師で教えられる数には限度がある
 - 大学では、研究業績が重視される。教えることに対する評価は低い。
 - “ソフトウェア生産技術”を体系だって教えてもらえるといいが...
 - 産業界側から主張するとよい
- 国の施策として
 - 必要性を訴えることも考えてみる
 - エンタープライズ系では、ソフトウェアの基礎知識を学ばないで入社することが多い

ディシプリ的なことは大学で教えるのか、企業で教えるのか？
→ やっぱ、大学でやってもらいたい

基本(プロセス、計測、改善など)を理解することで、スムーズにSPI活動が進む